

機関番号：34301  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19320011  
 研究課題名（和文）ポタラ宮所蔵スティラマティの俱舎論注釈書『真実義』の新出梵文写本研究  
 研究課題名（英文）A Study of the recently found Sanskrit manuscript of *Tattvārthā*, the commentary by Sthiramati on the *Abhidharmakośabhāṣya* kept in Potala Palace  
 研究代表者  
 小谷 信千代 (ODANI NOBUCHIYO)  
 大谷大学・文学部・名誉教授  
 研究者番号：40141494

研究成果の概要（和文）：チベットのポタラ宮に所蔵されているスティラマティの俱舎論注釈書『真実義』写本の解読を進め、第1章のうち23葉分の解読を終え、その試訳を作成した。『真実義』を解読するには、関連するアビダルマ文献を多く参照する必要がある。よって解読研究の前段階として諸文献の対照ノート作成などを本研究の基礎作業と位置付け、作成した研究資料をひろく研究者に提供した。

研究成果の概要（英文）：The research pursued during the prescribed years deals with the *Tattvārthā* by Sthiramati, a manuscript of the commentary on the *Abhidharmakośabhāṣya* kept in the Potala Palace of Tibet. 23 leaves (46 folios) from Chapter One were transcribed into roman characters and an attempt was made for a Japanese translation of the same. It is very much necessary to refer a great number of Abhidharma texts to read the *Tattvārthā* correctly. Therefore, as the first step of reading the text, a contrastive note of all the related texts was prepared. It was provided to a wide range of scholars as the fundamental work of the research.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2008年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2009年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
総計	15,300,000	4,590,000	19,890,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学，仏教写本，インド仏教，サンスクリット，アビダルマ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) チベットのポタラ宮やノルブリンカ宮に膨大な仏教写本が保管されていることが実際に確認され、ウィーンのオーストリア科学アカデミー・アジア文化思想史研究所と北京の中国蔵学研究中心との協力により、それら仏教写本の解読研究に着手できる状況が整った。

(2) シュタインケルナー博士を中心として、チベット自治区写本の解読研究が開始されるなか、本研究は、アビダルマ研究を専門とする研究者と、写本研究を専門とする研究者とによって、ポタラ宮所蔵写本解読研究の一翼を担うものとして組織された。

(3) スティラマティ（安慧）の注釈書『真実義』は、インドで著された『俱舎論』注釈

書のなかで最も大部で詳細な内容を持つ重要なものである。漢文や古代ウイグル文で部分的に現存するものの、サンスクリット原典は散逸したと思われてきた。今日までチベット語訳によって部分的に解説が試みられてきたが、チベット語訳の不十分さ、難解さ故に、十分な解説研究が行われてきたとは言い難い状況であった。一方、古代ウイグル文『俱舍論実義疏』は、庄垣内正弘博士によって解説がなされ、その研究成果はすでに公になっている。なお、チベット語からのモンゴル語訳が現存するが、その解説研究は皆無である。

インドの俱舍論注釈書について言えば、ヤショーミトラの俱舍論注釈書は全体にわたって翻訳研究が出揃い、その全体の解説がひとまず終えられた状況にあると言ってよい。だからこそ、次の段階として、スティラマティの俱舍論注釈書『真実義』サンスクリット原典の解説は、アビダルマ研究をさらに大きく進展させ得る研究課題であると言える。

このような状況下で、ポタラ宮に保管されてきたスティラマティの俱舍論注釈書『真実義』サンスクリット写本の解説に着手することが可能となり、本研究はスタートした。

## 2. 研究の目的

本研究は、チベット自治区に現存する写本群のうち、スティラマティの俱舍論注釈書『真実義』サンスクリット写本の解説を目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 現在のところ俱舍論注釈書『真実義』写本は一般に公開されておらず、また『真実義』写本は一本しか現存しない。そこで、写本のなかで文字がどのように筆写されているかできる限りそのまま研究者に提示するために *Diplomatic Edition* を提供すると同時に、批判版のテキスト *Critical Edition* を準備するという方針を採る。これはオーストリア科学アカデミーと中国蔵学研究中心との共同研究プロジェクトにおける現時点での基本方針である。

(2) サンスクリットテキストとその試訳を準備したうえで、定期的に研究会を開催し、共同で検討することを繰り返すというかたちで、研究を遂行した。

(3) オーストリア科学アカデミーや中国蔵学研究中心の研究者のみならず、同じくチベット自治区写本解説の研究プロジェクトに関わる国内外の研究者をはじめとして、写本

研究に取り組む研究者、アビダルマ研究に従事する専門家を大谷大学に招聘し、活発な研究交流を推進した。

## 4. 研究成果

(1) 本研究では、写本外形の特徴、章の区切りにチベット文字（ウメ）で記されているごく短いコロフォンをまず確認した。

当該写本は悉曇文字で書かれ、書写年代は9世紀を下らないと推測される。

写本全体は三つに分けて書写されたことが推測される。写本の最初の部分（写本Aと呼ぶ）と最後の部分（写本Cと呼ぶ）が現存し、中間部分（写本Bと呼ぶ）である第2章途中から第4章中程までを欠く。チベット語訳コロフォンには、チベット語訳された際に用いられたサンスクリット写本についての記述があるが、そこに記された写本の欠落箇所と本研究で参照することができた写本とは見事に一致する。よって、翻訳時に用いられたサンスクリット写本の概況についてのチベット大蔵経コロフォンの記述を裏付ける資料である。

また、チベット語訳コロフォンに記される通り、現存するチベット語訳は、完全なものとは言い難く、いくつかの問題を持つ。ときには、サンスクリット文をチベット文字で音写し、さらに暫定的な訳を、割注として付すという措置をとる場合がある。それらの箇所に対応するサンスクリット写本の文章を参照するも、写本の状態が悪く判読できない場合や、文章の意味を確定できない場合があった。

ともあれ、チベット文が訳文として不十分である箇所と、対応するサンスクリット写本のうち不明瞭である箇所との一致は、当該写本がやはりチベット語訳された際に用いられた写本であることの証左になると思われる。

[サンスクリット写本のコロフォン]

写本 A

[45b] slob dpon btsun pa blo brtan.....

mdzod kyi gnas dang po rdzogs so /

[58b] mdzod kyi gnas gnyis pa'i smad ltos che ba

dang / gnas gsum pa ril po / bzhi pa'i stod

mams bar 'dir ma tshang 'dug /

写本 C

[14a] gnas bzhi pa rdzogs so /

[35a] gnas lnga pa rdzogs so /

[56b] gnas drug pa rdzogs so /

[69b] gnas bdun pa'o /

[79b] blob dpon btsun pa blo gros brtan pas sbyar

ba mdzod kyi rnam par bshad pa'i rgya

cher 'grel pa'i gnas brgyad pa rdzogs so /

don gyi de nyid ces bya ba ma ....

(2) 本研究では、写本 A にあたる第 1 章「界品」注釈文のうち、23 葉分の解説を終え、その試訳を作成した。

ダルマパーラバドラによって 15~16 世紀に翻訳されたと言われる『真実義』チベット語訳と、北京図書館所蔵の敦煌出土漢文『俱舍論実義疏』はもちろんのこと、『俱舍論』本論とヤショーミトラやプールナヴァルダナの注釈文、そしてサンガバドラの『順正理論』やスティラマティの『五蘊論釈』などを逐一参照して校訂作業を行った。

多くの平行句を同定し、これまでチベット語訳のみでは明らかにすることができなかった文章を読み解くことができた。とりわけ、スティラマティが『順正理論』の文脈を熟知したうえで『俱舍論』を注釈しようとしていることがより鮮明に浮かびあがってきた。これは『順正理論』研究においても非常に重要な文献学上の成果であると言える。また『五蘊論釈』との平行句も見出され、『真実義』と『五蘊論釈』とは相互に参照しておく必要があることをあらためて確認した。

さらに、サンスクリット写本とチベット語訳とを検討するなかで、例えば以下のような顕著な特徴に注目しておく必要がある。チベット語訳では、*mdo sde pa* (経量部) と記されるにも関わらず、サンスクリット写本では、*sūtrakāra* (経主) となっている場合があった。その議論に対応する『順正理論』本文にも「経主」とあり、サンスクリット文と一致する。本研究で確認できたこのようなケースが、テキスト全体にわたり複数あるなら、これまでチベット語訳に基づいて経量部の説と了解されてきたものは、再検討されなければならない。そして『順正理論』の記述を再評価するという点においても、このサンスクリット写本は極めて重要である。

(3) 本研究の主目的である『真実義』写本解説には、多くの関連するアビダルマ文献の参照が必要不可欠である。本研究では開始当初から、それら関連する文献の整理・電子化を基礎作業として位置付け取り組んできた。具体的には、『真実義』チベット語訳の電子

テキストを作成(外部に依頼)した。あるいは、プールナヴァルダナの俱舍論注釈書チベット語訳に『俱舍論』本論の対応箇所などを書き込んだノートを作成し、また『俱舍論』諸訳対照ノートを作成した。それらは PDF ファイルにしておくことで、容易に共有できるようにしている。なお、データは CD-ROM, DVD-ROM に収め、必要とする研究者に配布している。これら諸文献の整理と電子化は本研究の副次的なものであるが、ひろくアビダルマ研究者に資する関連資料の作成は重要な基礎的研究の成果であると言える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

① 小谷信千代・秋本勝・福田琢・本庄良文・松田和信・箕浦暁雄「新出梵本『俱舍論安慧疏』(界品) 試訳」『真宗総合研究所 研究紀要』26, pp. 21-28, 2008 年, 査読無

② 小谷信千代「梵文写本研究の現状と課題」(第 60 回学術大会パネル発表報告)『印度学仏教学研究』58-2, 2010 年, 査読有 ([http://ci.nii.ac.jp/els/110007573677.pdf?id=ART0009397824&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1308298037&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110007573677.pdf?id=ART0009397824&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1308298037&cp=)) ([http://ci.nii.ac.jp/els/110007573678.pdf?id=ART0009397825&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1307690723&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110007573678.pdf?id=ART0009397825&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1307690723&cp=))

③ 箕浦暁雄「ヴァスバンドゥは分別 (*vikalpa*) を三種類と見なすか—スティラマティとヤショーミトラの解釈—」『佛教学セミナー』92, pp. 21-34, 2010 年, 査読無

[学会発表] (計 1 件)

① 小谷信千代 (パネル代表)・加納和雄・苦米地等流・箕浦暁雄 (「スティラマティ『俱舍論実義疏』梵文写本解説の現況」)・DASH Shobha Rani・松田和信 (「ガンダーラ語仏教写本を巡るこの一年間の新知見」)・「梵文写本研究の現状と課題」印度学仏教学会第 60 回学術大会, 2009 年 9 月 9 日, 大谷大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小谷 信千代 (ODANI NOBUCHIYO)  
大谷大学・文学部・名誉教授  
研究者番号: 40141494

(2)研究分担者

該当者なし

(3)連携研究者

本庄良文 (HONJO YOSHIFUMI)

佛教大学・仏教学部・特別任用教授

研究者番号：00115932

(H19：研究分担者)

秋本 勝 (AKIMOTO MASARU)

京都女子大学・現代社会学部・教授

研究者番号：80202547

松田 和信 (MATSUDA KAZUNOBU)

佛教大学・仏教学部・教授

研究者番号：90268128

(H19：研究分担者)

福田 琢 (FUKUDA TAKUMI)

同朋大学・文学部・教授

研究者番号：20278261

(H19：研究分担者)

箕浦 暁雄 (MINOURA AKIO)

大谷大学・文学部・講師

研究者番号：60351251

(H19：研究分担者)